

花粉症の治療について



こんにちは。院長の梅津由子です。クリニック通信もついに100号達成です！

これも手に取って読んで下さる皆様があればこそ、そして毎回内容を吟味し読みやすい紙面を作ってくれるスタッフに感謝！

クリニック通信では、これからも皆様のお役に立つ情報をわかりやすくお伝えしていきます。内容についてのご質問やご感想、こんなことが聞いてみたいなどございましたら、お気軽にスタッフにお声がけください。お待ちしております。

さて、4月になり徐々に気温も上がり春本番といったところですが、花粉症にお悩みの方も多いのではないでしょうか？花粉症がある人のなかには、中高年になって花粉症が軽くなり、自然に治る人がいます。ただ、若いうちは花粉症が自然に治ることはほとんどありません。花粉症には、花粉が飛んでいる時期に症状を放っておくと症状が悪化し、治療を行ってもなかなか症状がおさまらないという特徴があります。症状が少しでも出た時点で、なるべく早めに治療を始めることが大切です。



花粉症の治療は、まず薬によって症状を抑える「対症療法」を行います。市販薬も含めて、多くの点眼・内服・点鼻薬などがあります。医療機関で処方される薬は、ヒスタミンをブロックする**抗ヒスタミン薬**、鼻づまりの原因になるロイコトリエンという物質をブロックする**抗ロイコトリエン薬**、強力に炎症を抑える**ステロイド薬**など数多くの種類があります。自分に合う薬に出会うまでに時間がかかる場合もありますが、根気よく治療を続けていきましょう。自分に合う薬を見つけるためにも、受診の際は症状の経過を医師に詳しく伝えてください。

花粉症のなかで最も多い**スギ花粉症**には、根本的に治すことを目指す治療法の**アレルギー免疫療法（舌下免疫療法）**があります。花粉症の原因物質（アレルゲン）であるスギ花粉のエキスを少しずつ体の中に取り込んで、徐々にスギ花粉に体を慣らして、症状が起こらないように体質を改善していく治療法です。1日1回舌の裏に薬を投与し、2分間保持した後に飲み込みます。治療は少なくとも2～3年以上毎日続ける必要がありますが、治療終了後は長期間効果が続くことが期待されています。

いずれにしても5月になればスギ花粉の飛散も一段落。史上最長のゴールデンウィークを楽しみに乗り切りましょう！



目玉いきいきライフ

目玉いきいきライフのコーナーでは、
目の健康に関する情報や、
耳より情報（眼科だけどっ）をお届けします。

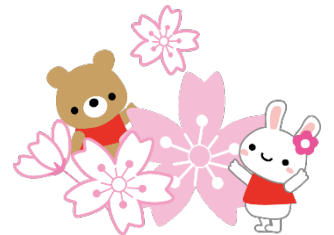


皆さんからの温かい励ましのお言葉が支えとなり、おかげさまで
クリニック通信は第 100 号を迎えました！記念すべき今号は、
開院 10 周年によせて患者さんからお話を聞かせて頂きました！



T さん（78 歳男性）へのインタビュー

Y B C 山形放送のラジオ「ドクターアドバイスで今日も元気」を聴いて、梅津先生が米沢で開業することを知りました。他院で白内障があるとされていて、他にも気になる症状があったので受診しました。受診してみて良い眼科だと思ったので、70 歳になったのを機に白内障の手術をすることにしました。私は中学の時から眼鏡をかけており、また、父の目が不自由だったことから、目の大切さを常日頃から感じていました。目が見えることで周りの視野が広がるし、相手の目を見ることで、その人の感情を知ることができる。人生で一番大事だと思います。白内障の術後も、ドライアイなどの経過を診てもらうため定期的に受診していますが、初めの頃と比べて先生も米沢に慣れ、今では世間話ができるほど親しみのある間柄になりました。長井から米沢への通勤は大変だと思いますが、身体に気をつけてこれからも頑張っていたきたいと思っています。



K さん（81 歳女性）へのインタビュー

初めて受診したのは今から 9 年前、目がゴロゴロしたのがきっかけでした。それまで眼科を受診したことがなかったので不安がありましたが、女性の先生が眼科を開業したと聞き、受診することにしました。受診して緑内障が見つかったことには驚きましたが、梅津先生は優しく、スタッフの皆さんは丁寧で、院内もきれいだったので、こちらの眼科に通院することにしました。夫も目のかすみになっていたもので、こちらの眼科を勧めたところ、白内障があったので、白内障の日帰り手術をして頂きました。

それから 1, 2 か月毎に受診していますが、スリッパを毎回消毒してくれたり、テレビや本棚、空気清浄機などの設備が整ってきたり、より良い環境で受診することができて印象が良いなと思っていました。

目が見えなくなってしまうと何もできなくなるので、目が疲れない程度に編み物を楽しんでいます。

先生の説明は丁寧で、優しく接して下さるので、これからも先生の指示をきいて目薬を続けていきたいと思っています。



祝！クリニック通信第 100 号！
めだまいきいきライフ！

編集後記

クリニック通信第 100 号は、患者さんへのインタビューを掲載しました。ご協力頂いた皆様、ありがとうございました。今後もクリニック通信をよろしくお願いたします！

ビビ・プッチ・まめちよ